

帰農で明日のむらづくり事業

取組に至る背景・事業の目的

- 「帰農（きのう）」には「昨日（きのう）」の意味が込められており、区民自らが山や田畑に手を入られて、増加している遊休荒廃農地を開墾し、区民農園として再生し、「以前の村の姿」を取り戻すことが次世代への何よりの贈り物と考えている。
- 地域内に直売所を設置し、区民農園の活動を自立的に継続するとともに、地産地消を促進する。

事業内容

- 区内の児童養護施設や育成会の子どもたちに、田植え、稲刈り、芋苗の植付け、芋掘り、山羊の乳搾りなどの農業体験の機会を提供した。
- 区民農園で収穫した野菜を地区の公会所玄関先で試験販売し、年度末に同敷地内に直売所専用の建物を新設した。
- 区民農園の3年間の取り組みをまとめ、冊子を500部作成し、同じ問題を抱える地域へ発信し、活動の普及を図る。



【 山羊の乳搾り 】

事業効果

- 地域内に直売所を設置して、区民農園の活動を持続できるようにし、地産地消の流れを促進できた。
- 農作業体験を通して子どもたち次世代の育成に貢献できた。
- 区民や岡谷市内の関係者などへ冊子を回覧・配布し、取組みに対する意識啓発が図れた。



【 直売所設置 】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 農産物直売所の建物を建てる前に、建設予定地の近くの建物（三沢区コミュニティ施設）の玄関の軒下を借りて、試験的に行った。その結果に基づき、当初計画していた規模を縮小して、需要と供給の実態にあった適正な規模の建物をつくることができた。
- 「区民農園の歩み」という冊子をつくったが、写真や絵をふんだんに取り入れて、多くの人に理解が届くように心がけて作成した。また、とても見やすい、と多くの方から好評をいただいた。
- 地域の子どもたちに農業体験の機会を提供したが、子どもの親たちの若い世代が、農作業に積極的に参加するまでには至っていない。
- 今後は、農業のもつ福祉的、教育的な側面に重きをおいた活動を行い、今まで農業にふれる機会がなかった人たちにも開かれた場にしていく必要を感じた。

【選定のポイント】

遊休農地を再生し、退職者等からの帰農者や子どもたちの農業体験の場を作るとともに、地産地消を推進し、地域の交流と継続的な運営が期待できる。

団体名 岡谷市三沢区	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 電話 0266-23-0663	事業費	1, 118, 903円
	支援金額	915, 413円